

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 54-123749
(43)Date of publication of application : 26.09.1979

(51)Int.Cl. H05B 11/00
F24C 11/00

(21)Application number : 53-031325 (71)Applicant : MITSUBISHI ELECTRIC CORP
(22)Date of filing : 17.03.1978 (72)Inventor : OBATA TETSUO
KEINO NAGAHARU
TAYAMA ISAMU
KAWADA YUKIO

(54) COOKING DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To enable automatic change-over from steam heating or HF heating to heater heating.
CONSTITUTION: When HF heating or steam heating is conducted with priority over heater heating, a selection switch 33 is turned on c-side and timer switches 27 and 32 together with a temperature adjuster 40 are set. With a cooking start switch 45 closed, the heating selected by a selection switch 42 is started; current is fed to an HF oscillation circuit 28 or to a steam heating heater 14. After the lapse of time period set on the timer switch 27, timer contacts 29 and 30 open and heaters 18 and 19 are connected with a power source through timer contacts 30 and 36 for conducting heater heating.

⑫公開特許公報(A)

昭54-123749

⑬Int. Cl.²
H 05 B 11/00
F 24 C 11/00識別記号 ⑭日本分類
67 J 0
127 E 132庁内整理番号 ⑮公開 昭和54年(1979)9月26日
6353-3K
7116-3L
発明の数 1
審査請求 未請求

(全4頁)

⑯調理装置

⑰特 願 昭53-31325
 ⑱出 願 昭53(1978)3月17日
 ⑲發明者 小畠哲男
 　　群馬県新田郡尾島町大字岩松80
 　　0番地 三菱電機株式会社群馬
 　　製作所内
 同 慶野長治
 　　群馬県新田郡尾島町大字岩松80
 　　0番地 三菱電機株式会社群馬
 　　製作所内

⑳發明者 田山勇
 　　群馬県新田郡尾島町大字岩松80
 　　0番地 三菱電機株式会社群馬
 　　製作所内
 　　川田幸男
 　　群馬県新田郡尾島町大字岩松80
 　　0番地 三菱電機株式会社群馬
 　　製作所内
 ㉑出願人 三菱電機株式会社
 　　東京都千代田区丸の内二丁目2
 　　番3号
 ㉒代理 人 弁理士 萩野信一 外1名

明細書

1. 発明の名称

調理装置

2. 特許請求の範囲

(1) 電熱による第1の加熱手段と、高周波による第2の加熱手段と、ステームによる第3の加熱手段とを備え、これら各加熱手段单独にてそれぞれの調理が行えるよう成すとともに、第2の加熱手段と第3の加熱手段のそれぞれから第1の加熱手段へ加熱手段を自動的に切り換える調理方法を予め設定できるようとしたことを特徴とする調理装置。

(2) 第1の加熱手段は2つの電熱ヒーターに対し所定の時間間隔で交互に通電を行うスイッチを備えたことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の調理装置。

(3) 第3の加熱手段はその動作時間中所定の時間間隔で瞬時されるスイッチとのスイッチに直列に設けたステーム発生用ヒーターとを備えたことを特徴とする特許請求の範囲第1項

ないし第2項のいずれかに記載の調理装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は高周波とステームと電熱とを利用して種々の調理が効率良く簡単に行えるようとした調理装置に関するものである。

従来から高周波、ステームあるいは電熱の各加熱手段を利用した調理装置は各種提供されているが、1つの調理装置において高周波とステームと電熱の各加熱手段を使えるような調理装置は提案されていない。

この発明は1つの調理装置において高周波とステームと電熱とのそれぞれにより調理が行えるよう成すとともに、従来に比較して加熱手段の数が増えても煩わしい操作を必要としないよう調理内容に適合した調理手段の自動切換操作ができるようにし、調理範囲の拡大と使い勝手の向上とを図つたものである。

以下この発明を図示一実施例に基づいて詳細に説明すると、第1図～第3図において、(1)は調理装置本体で、外ケース(2)と内部に加熱室(3)

(18) の通電を制御する後述する温度調節器 (40) の温度検知部 (24) を収納している。

次に回路構成について説明すると第 2 図において、(24) は電源、(25) は電源スイッチ、(26) は加熱室 (3) を覆うドア (図示せず) の開閉に応じて開閉されるドアスイッチで、ドアの開放時は図中破線のよう切り換えられる。

(27) はマグネットロン (7) や高圧トランジス、コンデンサ (いずれも図示せず) 等からなる第 2 の加熱手段である高周波の発振回路 (28) と第 3 の加熱手段であるステーム発生用ヒータ (14) への通電時間を設定する動作時間可調節のタイマースイッチで、タイマー接点 (29), (30) を有している。

(31) はマグネットロン (7) に冷却風を送風するファンのモーター、(32) は電源 (24) に対してタイマースイッチ (27) と並列に設けた第 1 の加熱手段である電熱調理用のタイマースイッチ、(33) は高周波、ステーム加熱先行接点 (6) と電熱先行接点 (4) とへ切り換えられる調理順序選択スイッ

チ、(34) は消、付勢により正接点 (4) 側と逆接点 (6) 側に切り換えられる電熱調理用タイマースイッチ (32) のタイマー接点、(35) はタイマースイッチ (32) のタイマー接点、(36) はタイマースイッチ (32) の設定時間中所定の時間間隔で開閉されるスイッチで、この実施例では開時間が 2.0 秒、閉時間が 1.4 秒程度に設定されている。

(38) は前記スイッチ (37) の開閉により消、付勢されるコイル (38) で開閉される切換スイッチで、前述のように上部ヒータ (18) 側へ 2.0 秒、下部ヒータ側へ 1.4 秒程度保持される動作をくり返す。

(40) は電熱調理温度調節器、(41) はスイッチ、(42) は第 3 の加熱手段であるステーム加熱と第 2 の加熱手段の高周波加熱とを選択する選択スイッチ、(44) はタイマースイッチ (27) の動作中に所定の時間間隔で開閉される断続供給スイッチ、(48) は連続供給スイッチ、(49) は調理開始スイッチで、閉成時その状態が保持されるようになつている。(47) は貯水タンク (12) の設置部

分に設けられ、そのタンク (12) の正しい設置位置で閉じられる安全スイッチである。

以上の構成において次にその動作を説明する。まず電熱調理回路を高周波加熱調理 (6) あるいはステーム加熱調理 (6) よりも優先させて先に行わせるには、選択スイッチ (33) を (4) 接点側に切り換え、かつタイマースイッチ (32) で電熱加熱時間を設定すると、タイマー接点 (34) は図中実線で示すように保持される。一方選択スイッチ (42) をどちらかに設定してその調理時間をタイマースイッチ (27) で設定すると、タイマー接点 (34), (35) は図中実線で示すように開放されるので、ドア (図示せず) を閉じて電源スイッチ (25) と調理開始スイッチ (45) を閉じると、タイマースイッチ (32) により接点 (37) が開閉をくりかえし、これによりコイル (38) も消、付勢されるので切換スイッチ (38) はヒータ (18), (19) 側へ切り換えをくり返され、使用者が温度調節器 (40) で予め設定した温度に加熱室 (3) 内の多段気温を保つてタイマースイッチ (32) の設定時間中電熱調理

回を行う。

そして設定時間が経過すると接点(30), (34)は開き、接点(34)は逆接点(6)側に切り換えるので、タイマースイッチ(27)の設定時間中、高周波加熱調理(4)あるいはスチーム加熱調理(8)が行われる。

なおここで連続供給スイッチ(48)を開いておけばヒータ(14)に断続的に通電がされ、気化室(18)内の少量の水はスチーム化して断続的に加熱室(6)内へ供給されるものであり、またスイッチ(46)を閉じれば連続的にスチーム供給が成されるものである。

次に前記とは逆の順序で第3図(ウ)(エ)のように高周波加熱調理(4)あるいはスチーム加熱調理(8)を先行させるには、選択スイッチ(33)を(6)接点側に切り換えてタイマースイッチ(27), (32)温度調節器(40)を設定し、調理開始スイッチ(45)を開じれば、タイマー接点(30)を介して選択スイッチ(42)にて選択した高周波発振回路(28)あるいはスチーム発生用ヒータ(14)に電流

(24)が接続されるので高周波加熱調理(4)あるいはスチーム加熱調理(8)が行われる。そしてタイマースイッチ(27)の設定時間が経過するとタイマー接点(29), (30)は閉くので、タイマー接点(30), (38)を介してヒータ(18), (16)は電源(24)に接続され、所定の電熱加熱調理(4)を行なう。

なお電熱調理時スイッチ(41)を開いておくと、コイル(38)が付勢されないので切換スイッチ(38)は上部ヒータ(18)側へ切換保持されることになり、上部ヒータ(18)のみによる強力ふく射熱で焼焼調理が行える。

第4図(7)は電熱加熱(4)から高周波あるいはスチーム加熱調理(8)へ切り換わる時所定時間(7)は両方同時に行われるようにしたものであり、第4図(1)はその(7)の順序を逆に行なうようにしたものであり、例えばその(1)の方法を具体的に可能とするには第5図に示すようにタイマー接点(30)が開いた時点から所定の時間(7)中は導通するような時間素子(47)を設ければ良い。

なお高周波加熱とスチーム加熱用にそれぞれ

個別のタイマースイッチを設けても良い。

以上のようにこの発明によれば、高周波と電熱とスチームとのそれぞれを利用して調理ができるとともに、スチーム加熱と高周波加熱から電熱加熱へそれぞれ調理手段を自動的に切り換えるので、予め調理内容に応じて選択設定しておけば、途中で煩わしい切換操作をしなくとも調理を次へ進行させ得るものであり、加熱手段の選択ができることと相俟つて調理範囲の拡大が図られるとともに、格段と便い勝手の向上したものを作成できるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例を示す調理装置の中央部簡略断面図、第2図はその基本回路図、第3図は調理順序切換状態を示す説明図、第4図は同じく他の実施例を示す調理順序説明図、第5図はその基本回路図である。

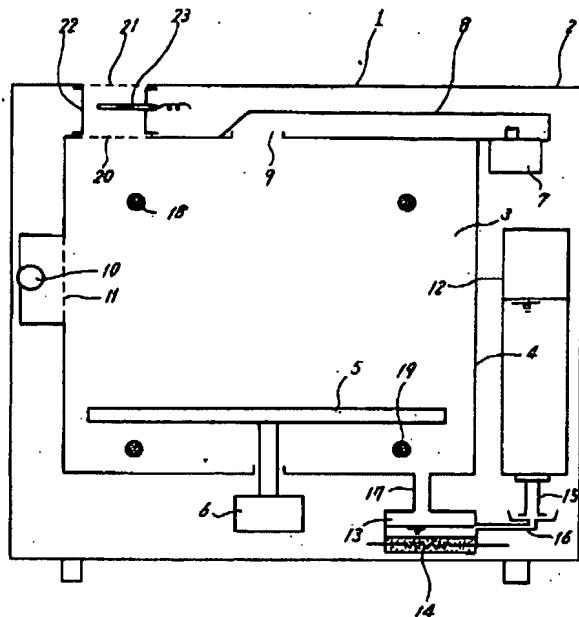
図中、(14)はスチーム発生用スイッチ、(18)は電熱ヒータ、(27), (32)はタイマース

イッチ、(28)は高周波発振回路、(33), (42)は選択スイッチである。

なお、図中同一符号は同一又は相当部分を示すものである。

代理人 喜野信一(外1名)

第1図



特開昭54-123749(4)

